

CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.0 for Linux

CLUSTERPRO MC StorageSaver for BootDisk 2.0 (for Linux)

パラメータシート

第1版

2015年3月31日

日本電気株式会社

改版履歴

版数	改版履歴	改版年月日
1	新規作成	2015/3/31

目次

1. はじめに	P.4
2. 対象ファイル一覧	P.6
3. 特記事項	P.7
4. RootDiskMonitor プロセスモデル	P.8
5. RootDiskMonitor パラメータ概要	P.9
6. RootDiskMonitor パラメータ設定シート(記入例)	P.14
7. RootDiskMonitor パラメータ設定シート	P.17

1. はじめに

- ◆ 本書は、CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.0 for Linux (以降、RootDiskMonitor と記述します)、および CLUSTERPRO MC StorageSaver for BootDisk 2.0 (for Linux) におけるパラメータの概要について記載したパラメータシートです。
(注) StorageSaver for BootDisk は、以後 RootDiskMonitor と表記します。

本書を参考に、システムの構成にあったパラメータ設計を行ってください。

- ◆ 本書をパラメータ設計以外の用途で無断で使用することはご遠慮ください。
- ◆ 本書は、以下のプラットフォーム及び製品のバージョンを対象としております。
 - プラットホーム : RootDiskMonitor のサポートプラットフォーム環境に依存します。
 - RootDiskMonitor : CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.0 for Linux

1. はじめに（続き）

◆ 商標

- Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における、登録商標または商標です
- 記載の製品名および会社名はすべて各社の商標または登録商標です

2. 対象ファイル一覧

＜RootDiskMonitor 設定ファイル＞

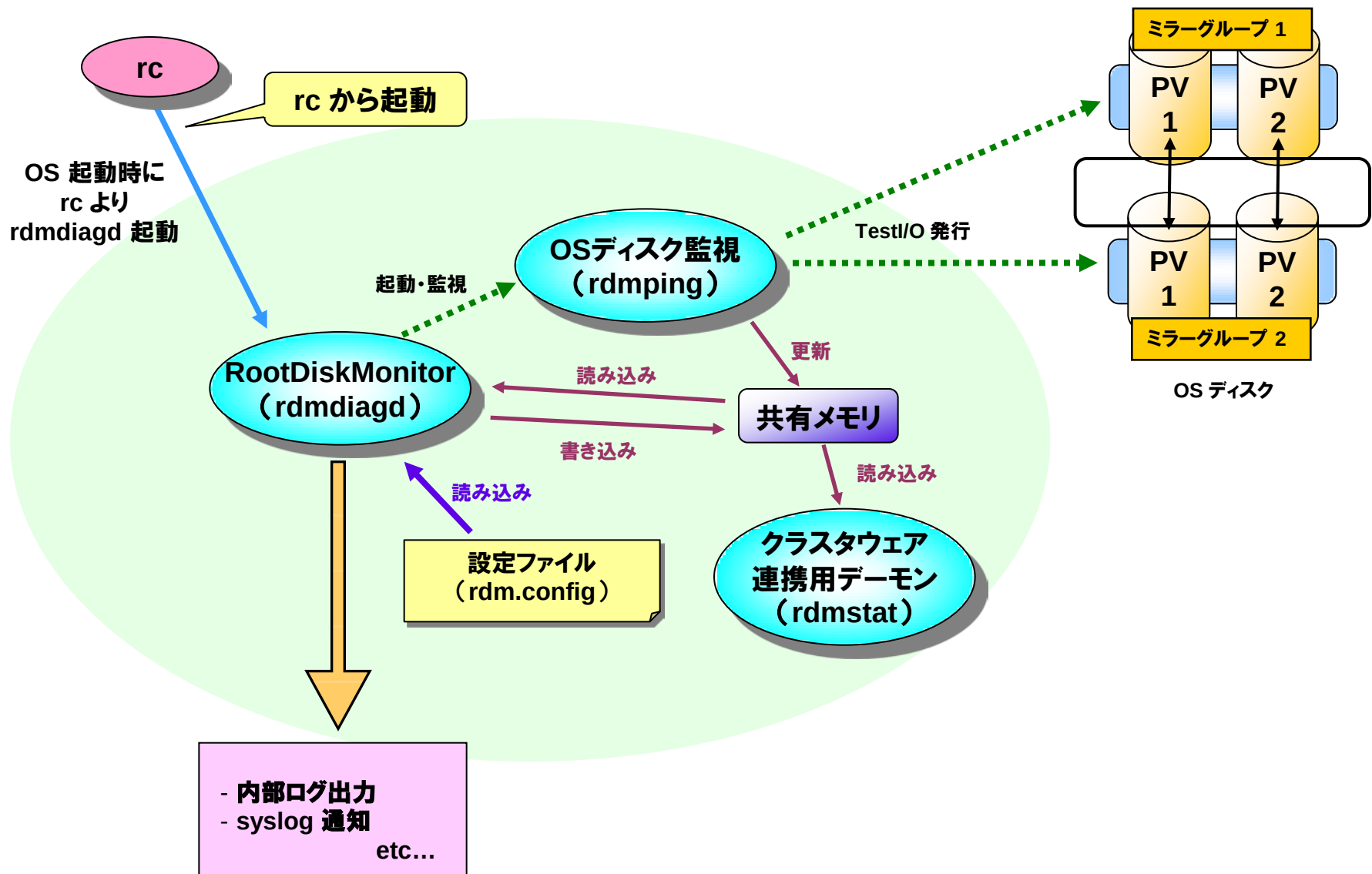
◆ 設定ファイル

- /opt/HA/RDM/conf/rdm.config

3. 特記事項

- ◆ 本書「パラメータシート」に記載している「規定値」は、一般的なシステムに対して製品として定めている値です。インストール後に設定変更を行わなかった場合、本製品は「規定値」で動作します。必要がある場合は、システム構成に応じて値を変更してください。
- ◆ 本書「パラメータシート」にて規定値に「システム構成に依存」と記載しているパラメータはシステム構成により設定内容が異なりますが、設定ファイル自動生成コマンド (/opt/HA/RDM/bin/rdmconfig) をご使用いただくことで、実際の構成に合った設定ファイルを自動生成することができます。

4. RootDiskMonitor プロセスモデル



5. RootDiskMonitor パラメータ概要

5. RootDiskMonitor パラメータ概要(1)

【設定ファイル(動作定義)】

設定ファイル: /opt/HA/RDM/conf/rdm.config

各タイマ値の上限値は MAXINT まで指定可能ですが、常識的な値での運用を推奨します。

パラメータ名	規定値	規定可能範囲	意味	備考
TIME_VG_FAULT	60(秒)	30 ~ MAXINT(秒)	監視リソースを異常と判定する時間。	
TIME_VG_STALL	360(秒)	0(監視しない) 60 ~ MAXINT(秒)	監視リソースの I/O ストールを判定する時間。	
TIME_TESTIO_INTERVAL	5(秒)	1 ~ MAXINT(秒)	TestI/O の発行間隔。	
WAIT_TESTIO_INTERVAL	5(秒)	1 ~ MAXINT(秒)	TestI/O でパススルードライバに指定する I/O 待ち合わせ時間。	
OVER_ACTION	SERVICE_CMD_DISABLE	SERVICE_CMD_DISABLE SERVICE_CMD_ENABLE CLPNM_KILL TOC_EXEC POWER_OFF	OS ディスク異常検出時に行うアクション。 SERVICE_CMD_DISABLE... アクション無し。 SERVICE_CMD_ENABLE... クラスタウェア連携用デーモン(rdmstat)を使用してクラスタ連携を行うことで、 ノード切り替えを行う CLPNM_KILL... CLUSTERPRO のサーバ管理プロセスである clpnm を強制終了することでノード切り替えを行う。 TOC_EXEC... システムメモリダンプを採取し、OS を強制停止 することでノード切り替えを行う。 POWER_OFF... ソフトウェア watchdog を利用し、OSを停止する。	

5. RootDiskMonitor パラメータ概要(2)

【設定ファイル(動作定義)】

設定ファイル: /opt/HA/RDM/conf/rdm.config

以降のパラメータを変更する場合は開発部門までお問い合わせください。

パラメータ名	規定値	規定可能範囲	意味	備考
VG_STALL_ACTION	SERVICE_CMD_DISABLE	SERVICE_CMD_DISABLE SERVICE_CMD_ENABLE CLPNM_KILL TOC_EXEC POWER_OFF	I/O ストール検出時に行うアクション。 SERVICE_CMD_DISABLE... アクション無し。 SERVICE_CMD_ENABLE... クラスタウェア連携用デーモン(rdmstat)を使用してクラスタ連携を行うことで、ノード切り替えを行う。 CLPNM_KILL... CLUSTERPRO のサーバ管理プロセスである clpnm を強制終了することでノード切り替えを行う。 TOC_EXEC... システムメモリダンプを採取し、OS を強制停止することでノード切り替えを行う。 POWER_OFF... ソフトウェア watchdog を利用し、OSを停止する。	本パラメータは変更しないことを推奨します。

5. RootDiskMonitor パラメータ概要(2)

【設定ファイル(動作定義)】

設定ファイル: /opt/HA/RDM/conf/rdm.config

以降のパラメータを変更する場合は開発部門までお問い合わせください。

パラメータ名	規定値	規定可能範囲	意味	備考
TESTIO_MODE	INQ_TUR	INQ INQ_TUR INQ_TUR_READ DIRECT READ	TestI/O の発行方式。 INQ... バススルードライバ経由で Inquiry を発行する。 INQ_TUR... バススルードライバ経由で Inquiry と TestUnitReady を発行する。 INQ_TUR_READ... バススルードライバ経由で Inquiry と TestUnitReady と Readを発行する。 DIRECT... 設定ファイルに定義されたデバイスファイルに対して 直接 Inquiry とTestUnitReady を発行する。 READ... 設定ファイルに定義されたデバイスファイルに 対して直接 Read を発行する。	従来のパラメータ (TUR_TESTIO_USEと TESTIO_DIRECT)は本パラ メータに統合されました。 一部ディスク装置(EMC 社製 CLARiX シリーズ等) は TestUnitReady の発行を許可 していません。そのようなディスク 装置を監視する場合は本パラ メータを INQ としてください。

5. RootDiskMonitor パラメータ概要(3)

【設定ファイル(デバイス定義)】

設定ファイル: /opt/HA/RDM/conf/rdm.config

パラメータ名	規定値	規定可能範囲	意味	備考
VG	システム構成に依存	システム構成に依存	OS ディスクのボリューム名。 形式: VG <VG名> 例) VG /dev/VolGroup00	設定ファイル自動生成コマンド(/opt/HA/RDM/bin/rdmconfig)を実行することにより、本パラメータを容易に設定することができます。
VOLTYPE	ROOT_VOLUME	ROOT_VOLUME OTHER	ディスクの種別を指定。 ROOT_VOLUME... 通常の OS ディスクの場合に指定。 VG ダウンを検出した場合に通常通り OVER_ACTION の動作を実行する。 OTHER... OS ディスク以外のデータディスクの場合に指定。 OTHER が指定された VG は、VG ダウンを検出した場合でも OVER_ACTION の動作を実行しない。	デフォルトでは使用しません。
MIRROR	システム構成に依存	システム構成に依存	OS ディスクのミラーグループを構成する組み合わせ。 OS ディスクの中で同一データを構成する I/O パスをグルーピングする。 形式: MIRROR <GROUP名> 例) MIRROR group01	GROUP 名には 16 文字以内のノード一意である任意の英数字を指定してください。設定ファイル自動生成コマンド(/opt/HA/RDM/bin/rdmconfig)を実行することにより、本パラメータを容易に設定することができます。
PV	システム構成に依存	システム構成に依存	I/O パスへの udev デバイスファイルまたはブロックスペシャルファイル。 形式: PV <udev ファイル名> または PV <ブロックスペシャルファイル名> 例) PV pci-0000:09:00.0-scsi-0:2:0:0 または PV /dev/sda	シングルバス構成の場合は LUN の udev デバイスファイルまたはブロックスペシャルファイルをひとつ指定してください。 ソフトミラー構成の場合は正副 LUN 両方の udev デバイスファイルまたはブロックスペシャルファイルを指定してください。 FC 接続の代替バス構成の場合は LUN への正副 I/O バス両方の udev デバイスファイルまたはブロックスペシャルファイルを指定してください。 設定ファイル自動生成コマンド(/opt/HA/RDM/bin/rdmconfig)を実行することにより、本パラメータを容易に設定することができます。

6. RootDiskMonitor パラメータ設定シート(記入例)

6. RootDiskMonitor パラメータ設定シート(記入例)(1)

【設定ファイル(動作定義記入例)】

設定ファイル: /opt/HA/RDM/conf/rdm.config

下記は記入例です。未記入のシート(P.18)をご利用ください。
設定ファイル自動生成コマンド(/opt/HA/RDM/bin/rdmconfig)実行により
実構成に合った設定ファイルを自動生成することができます。

記入例		
パラメータ名	設定値	備考
TIME_VG_FAULT	60	監視リソースを異常と判定する時間。
TIME_VG_STALL	360	監視リソースの I/O ストールを判定する時間。
TIME_TESTIO_INTERVAL	5	TestI/O の発行間隔。
WAIT_TESTIO_INTERVAL	5	TestI/O でパススルードライバに指定するI/O 待ち合わせ時間。
OVER_ACTION	SERVICE_CMD_DISABLE	OS ディスク異常検出時に行うアクション。
VG_STALL_ACTION	SERVICE_CMD_DISABLE	I/O ストール検出時に行うアクション。
TESTIO_MODE	INQ_TUR	TestI/O の発行方式。

6. RootDiskMonitor パラメータ設定シート(記入例)(2)

【設定ファイル(デバイス定義記入例)】

設定ファイル: /opt/HA/RDM/conf/rdm.config

下記は記入例です。未記入のシート(P.19)をご利用ください。
設定ファイル自動生成コマンド(/opt/HA/RDM/bin/rdmconfig)実行により
実構成に合った設定ファイルを自動生成することができます。

記入例		
パラメータ名	設定値	備考
VG	/dev/VolGroup00	ボリューム名
MIRROR	group01	ミラーグループ名
PV	pci-0000:09:00.0-scsi-0:2:0:0	バス情報
PV	pci-0000:09:00.0-scsi-0:2:0:1	バス情報
MIRROR	group02	ミラーグループ名
PV	pci-0000:09:00.0-scsi-0:2:0:2	バス情報
PV	pci-0000:09:00.0-scsi-0:2:0:3	バス情報

7. RootDiskMonitor パラメータ設定シート

7. RootDiskMonitor パラメータ設定シート(1)

【設定ファイル(動作定義雛形)】

設定ファイル: /opt/HA/RDM/conf/rdm.config

パラメータ名	設定値	備考
TIME_VG_FAULT		
TIME_VG_STALL		
TIME_TESTIO_INTERVAL		
WAIT_TESTIO_INTERVAL		
OVER_ACTION		
VG_STALL_ACTION		
TESTIO_MODE		

7. RootDiskMonitor パラメータ設定シート(2)

【設定ファイル(デバイス定義雛形)】

設定ファイル: /opt/HA/RDM/conf/rdm.config

パラメータ名	設定値	備考
VG		
MIRROR		
PV		
PV		
MIRROR		
PV		
PV		

Empowered by Innovation

NEC